

学習内容報告書 フォーマット

学校名	青森市立北小学校
授業者	鈴木 健司

1. 単元計画

1-1. 単元名

陸奥湾の魅力PR隊

1-2. 学年

6 学年

1-3. 教科

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

探究の課題を「陸奥湾の隠れた魅力」と設定し、地域の自然の豊かさや魅力を探り、調べて分かったことを発信する中で、陸奥湾の自然の素晴らしさを発見、再確認する。

～主な学習活動～

- 青森市の魅力度について知る。(修学旅行先である函館市との比較)
- 青森市の魅力を出し合う。
- 青森市の隠れた魅力について調べる。(みんなよく知っているものでは、魅力度向上につながらない)
- 陸奥湾で養殖されているホヤについて知る。
 - ・青森水産振興センターの方からの講話(ホヤの生態)
 - ・ホヤランプ作り
 - ・手作りホヤランプの販売依頼
- 体験・見学したことや調べたことをまとめ、発表する。
- 陸奥湾の現状とこれからの課題と解決策について考える。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

児童は、地引き網体験や5学年のホタテ養殖等の学習を行っており、身近な海についての知識はあるものの、陸奥湾についての隠れた魅力については知らない児童が多い。そこで本単元では、ホヤの生態等の学習やホヤランプ作りと販売を通して、ホヤについて調査・考察することで陸奥湾の新たな魅力の理解を深め、情報を発信する。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・身近な環境に興味をもち、調べたい課題を設定し、見通しをもって追究する力。
- ・図書資料やインターネット等及び実社会で働く人からの聞き取りを通して情報を収集する力。
- ・収集した情報を取捨選択、比較・関連付け・総合する等、工夫してまとめる力。
- ・青森の隠れた魅力について考察し、学んだことを元に発信しようとする力。

1-7. 単元の展開（全29時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ～ 8 時	<p>青森市の魅力度について知ろう (修学旅行先である函館市との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の計画と並行して、宿泊先である函館の魅力度を知る。 ・青森市の魅力度を知り、2つの都市の共通点や相違点について考える。 ・青森市の魅力度を向上させるための隠れた魅力について情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランキングなどを提示して、2つの都市の魅力について考えさせる。 ・自然や歴史、文化などの観点からランキングの妥当性について気付かせる。 <p>【教】2in1 パソコン、chrome ブック 【外】青森市水産振興センター 【評】青森市と函館市のよさに気づき、青森市の新たな魅力について考えることができたか。</p>
9 ～ 12 時	<p>自然とふれあい学習会から陸奥湾のよさを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地引き網での漁業体験をする。 ・陸奥湾にいる生物について知り、海の恵みについて考える。 ・魚の扱い方を知り、捕れた魚に触れ観察する。 ・体験を通して気付いたことや感じたことを記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地引き網で魚を捕る体験や魚に触れる体験を通して、海の生物や海の仕事に興味をもたせるとともに海の環境を守ろうとする心情を育む。 ・陸奥湾のよさについて考えさせる。 <p>【教】映像記録機器(デジタルカメラ、ビデオ等) 【外】青森市水産振興センター 奥内漁業研究会 【評】体験を通して陸奥湾のよさを感じ、改めて陸奥湾の環境を守ろうとする心情を育む。</p>
13 ～ 20 時	<p>陸奥湾で養殖されているホヤについて知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森市水産振興センターの方からの講話を聞く。(ホヤの生態等) ・ホヤ養殖の課題になっている殻の再利用について知る。 ・ホヤランプ作りをする。 ・陸奥湾のよさなどにふれながら、ホヤランプ販売用のパッケージにデザインをする。 ・手作りホヤランプの販売依頼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホヤランプのよさに加え、陸奥湾のよさを表現することができるように、よさを表す単語やキーワードをブレインストーミングで出させて、表現の幅を広げる。 <p>【外】青森市水産振興センター 奥内漁業研究会 【評】陸奥湾の隠れた魅力である、ホヤのよさを知り、PRする方法について考えることができたか。</p>
21 ～ 29 時	<p>青森市の魅力度向上のPR発表会をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を、壁新聞やスライド等にまとめる。 ・発表会をする。 ・青森市の魅力度ランキングを向上させるために自分たちができることを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元で、学んだことをまとめさせる。 ・魅力度を向上させるために、自分たちが発見した物を中心に発表する。 <p>【評】青森市の魅力度向上に向けてPRする活動を通して自分たちが今できることについて考えることができたか。</p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 29 時間中の 13～20 時間目

2-2. 本時の目標

ホヤランプ作りの体験活動を通して、青森市の隠れた魅力であるホヤの特性を理解したり、活用法について考えたりすることができる。また、地域の人々や専門家とともに、身近にあるホンモノに触れ、質問したり体験したりする活動を通して、PR活動への意識を高める。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
1. 陸奥湾でとれる主な海産物について話し合う。 <ul style="list-style-type: none">・ほたての生産量の順位を知る。(日本2位)・ひらめの生産量の順位を知る。(日本1位)・わかめはこの地域では上手く育たないことを知る。	<ul style="list-style-type: none">・6年間、地域で過ごして、気付いたことや学習したことを元に話し合わせる。・実物を提示し、児童に興味を持たせる。・わかめの種付けの経験を想起させる。
2. ホヤについて学習する。 <ul style="list-style-type: none">・陸奥湾での漁獲量を知る。・ホヤのとれる時期を知る。・ホヤの生態を知る。・ホヤの活用方法を知る。・ホヤ養殖の課題を知る。	<ul style="list-style-type: none">・青森市水産振興センターの方々の指導のもと学習する。
3. ホヤランプ作りで学んだことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none">・ホヤは生後すぐは、人間と同じ仲間だということを知る。・ホヤは、5つの味覚が感じられることを知る。・セルロースを唯一生成できる動物だということを知る。	<ul style="list-style-type: none">・陸奥湾には、自分たちが知らない魅力があることに気付かせる。・ホヤや陸奥湾についてもっと調べたいという追究意欲を持たせる。・学んだことのPRにより、青森市の魅力度が向上するかもしれないことに気付かせる。
4. ホヤランプ作りをする。 <ul style="list-style-type: none">・ホヤを煮る。・ホヤをさばく。・風船を使って型を取る。・乾燥後、ニスを塗り、ランプを接着する。	<ul style="list-style-type: none">・ホヤを扱う際の安全面や方法について説明する。・火気や包丁などを使用するので、併せて安全面や使用方法、約束事について確認する。・販売することを意識させて活動を行わせる。・班で役割を決め、進んで活動する意欲を引き出す。
5. ホヤランプ販売用のパッケージを作る。 <ul style="list-style-type: none">・ブレインストーミングでホヤのよさを表すキーワードを出し、表現のイメージを広げる。	<ul style="list-style-type: none">・ブレインストーミングでは、ホヤの味、陸奥湾のよさ、ランプのあたたかい光について出させる。

<ul style="list-style-type: none"> ・パッケージにホヤや陸奥湾、ランプのよさをPRできるデザインにする。 ・箱詰めする際に、学んだとを元にPRメッセージを添える。 <p>6. 販売者への依頼文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージに表現した内容で優れている物を班で選び、依頼文にも生かす。 	<p>【評】パッケージに、陸奥湾の隠れた魅力を学習した内容を随所に生かすことができたか。(パッケージより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店頭販売用とネット販売用の依頼文のどちらか一方を作るように役割を決める。
---	---

3. 今回の活動の自己評価

<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の調べ学習と並行して行ったため、児童が必要感をもって活動や学習に取り組むことができた。 ・家庭科や社会科などの学習と連携を図ることで、横断的に学習を進めることができた。 ・青森市水産振興センターや奥内漁業研究会の協力を得ることで、児童はホンモノの体験を通して課題を追究することができた。 ・3校統合の年ではあったが、体験活動を通して仲間づくりを進めることができた。
--

4. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・既習のほたて養殖学習と比較させることで深い学びに導きたい。 ・ホヤの生産者との交流に加え、販売者との交流も計画し、実社会で働く人々の考えに幅広くふれることで、深い学びに導きたい。そのために、オンライン会議システムの活用を考える。 ・陸奥湾など身近な環境を守る意識付けを図る一つの取り組みとして、ホヤランプの省電力化をプログラミング学習で実現させ、深い学びとしたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<ul style="list-style-type: none"> ・ホヤランプ作りではホヤの殻の乾燥が一番重要な作業となる。自然乾燥ではうまくいかないため、専用の乾燥機が必要となる。
--